

日本学術会議東北地区会議主催公開学術講演会

# 災害と文明 — 災害に対する 社会の対応 —

日時

令和3年  
10月30日(土)  
【13:30～16:30】

オンライン開催〈参加無料〉

参加申込  
方法

参加を希望される方は、10/24(日)までに下記URLまたは右のQRコードより事前申込をお願いします。定員になり次第、事前申込みの受付は終了します。



<https://forms.gle/hXimXds5LhpUyjgK6>

開催趣旨

東日本大震災から10年が経過した。福島原発災害による「現代文明への信頼喪失」は広い範囲に及び、その分析と反省から様々な提言がなされてきた。

また、一昨年末に出現した新型コロナウイルス感染症は、世界中を混乱に陥れ、未だに終息の道筋は不透明である。これらは、単に自然界の変化によって起こる災害、すなわち「天災」で済ますべき問題ではなく、文明が進んだこと等による人為的災害、すなわち「人災」という側面からも考えていく必要がある。

本講演会では、地震学、農学、ウイルス学の専門家から「過去から学び取ること」、「今、分かっていること」、「復興への提案」を伺い、歴史を踏まえ、今後このような「人災」ともいえる「災害」にどのように取り組んでいくかを参加者とともに考えたい。

次第

司会進行

高井 伸二 (日本学術会議東北地区会議会員、北里大学名誉教授)

1. 開会挨拶

13:30

日本学術会議副会長 望月 眞弓

佐藤 嘉倫 (日本学術会議東北地区会議代表幹事、東北大学大学院文学研究科教授、京都先端科学大学人文学部学部長・教授)

2. 講演

13:40

第一部 東日本大震災から10年

1 鎌田 浩毅 (京都大学レジリエンス実践ユニット特任教授・京都大学名誉教授)

南海トラフ巨大地震・富士山噴火・首都直下地震に備える

2 小山 良太 (日本学術会議東北地区会議連携会員、福島大学農学群食農学類農業経営学教授)

被災地域農業再編と創造的復興：  
新たなフードシステムのデザイン

第二部 歴史に学ぶ：ヒトの移動に伴う感染症の移動

3 加藤 茂孝 (保健科学研究所学術顧問)

人類と感染症の歴史に学ぶ

4 水谷 哲也 (東京農工大学附属感染症未来疫学研究センター長・教授)

新型コロナウイルスの生存戦略は巧みだ：  
変異ウイルス出現と今後の対応

5 渡辺 登喜子 (大阪大学微生物病研究所教授)

エボラ制圧を目指して：  
シエラレオネにおける研究とワクチン開発

3. 質疑応答

16:10

4. 閉会挨拶

16:30

高井 伸二 (日本学術会議東北地区会議会員、北里大学名誉教授)

お問い合わせ先

東北大学研究推進課  
TEL: 022-217-4840  
E-mail: kenkyo@grp.tohoku.ac.jp

主催：日本学術会議東北地区会議

共催：東北大学

後援：公益財団法人日本学術協力財団、北里大学獣医学部、京都大学レジリエンス実践ユニット、福島大学、東京農工大学、大阪大学微生物病研究所